

アメリカ中西部 酪農研修レポート

八雲営業所 柿原 一樹

平素は格別のお引き立てを誠にありがとうございます。
す。

昨年になりますが、9月28日から10月6日までの9日間、社内アメリカ酪農研修に参加して参りました。研修日程は下記の通りですが、研修内容で特に印象に残りましたミネソタ州にありますジンプロ社の講義をご紹介します。ご報告申し上げます。

研修日程

日	場所	内容
9月28日	ミネソタ州	日本からミネソタへ
9月29日	ミネソタ州	ジンプロ社にて講義
9月30日	ミネソタ州	農場視察 ミネソタからウィスコンシンへ
10月1日	ウィスコンシン州	農場視察
10月2日	ウィスコンシン州	ランドマーク社視察 ウィスコンシン大学にて講義
10月3日	ウィスコンシン州	ワールドデイリーエキスポ視察
10月4日	ウィスコンシン州	ウィスコンシンから日本へ

9月29日 ジンプロ社にて

アンディ・ミュラー博士の講義

アンディ博士は地元ミネソタ州のピュリナ・ミルス社という飼料会社で、栄養と技術サポートを担当されています。

【講義内容】

- ・現地アメリカ中西部の酪農は自給飼料が高品質（消化性が高い＝高NDFD）で、自給率も高く、生乳を低コストで生産できることが特徴です。
- ・アメリカの乳価は州ごとに異なった価格であり、ミネソタ州では乳脂肪、乳タンパクで乳代が決まり、ミネソタ州の生乳はほとんどがチーズ・バターなどの加工向けられます。
- ・研修当時の乳価は15.5～15.7\$ /lb、コストは16\$ /lbとのことでした。
- ・生産性を高めるためには粗飼料品質を高める、すなわち土づくり、草づくりが重要であるとのことでした。

【アンディ博士の着目点】

- ・農場で経営改善に取り組む際、「生産目標を持っているか？」ということに重要視している。
 - ・さらに持っている粗飼料はその生産目標に経済的に役立つか？農場の生産目標に対して粗飼料に何を求めるかを考えている。
 - ・より多くの栄養を求めるのなら、より消化性の良い繊維でなければならない。
- 粗飼料品質の指標として、RFVとRFQを重視している。

【RFV】 日本でも使われる指標で繊維（NDF値）の量で評価する。

【RFQ】 アメリカで用いられる指標で相対飼料品質の意味。NDFの消化率を表すNDFd値を評価する。NDFd値が高いということは、より消化性が高いということであり、乾物摂取量が上がリ、NEL（正味エネルギー）値も高くなる。

- ・生産性を高めるのも阻害するのも粗飼料の質である。
- ・ただし、すべての繊維を高品質では賄えないし、反芻のための繊維も必要である。
- ・乳価が高ければ、高消化性の繊維として大豆皮やグルテンフィードを使える、状況に応じて選択すれば良い。
- ・栄養面のサポートだけでなく、いかに牛に食べさせるかのフォローも大切である。
- ・飼槽を空にしないために、エサ押しとTMR給与のタイミングが重要である。
- ・話ただけでは実践してもらえないし、特に大規模農場ではエサやり担当者とのコミュニケーションが重要になってくる。

- ・その対策としてカメラを設置し、エサ押し、TMR給与を記録したこともある。
- ・採食量を上げるため照明の管理も重要である。

搾乳 明 16時間 : 暗 8時間
乾乳 明 8時間 : 暗 16時間

※特に過密状況下では明るくすることで採食量が上がった

★以上のような技術的なことはもちろん重要だが、一番大切なのは牛の気持ちになって考えること

アンディ博士は「牛は13歳の女の子」と思い、考えていると話していた。

牛のことを考えているのは大体が「おじさん」である。

本当に牛の気持ちが理解できているのか？

～こぼれ話～

ピュリナ・ミルス社の採用基準として、

- ・牛の視点に立てるかどうか？
- ・コミュニケーション能力が高いかどうか？

が重要項目となっているらしい。

【私の感じた事】

アンディ博士はピュリナ・ミルス社の技術サポートとして日々生産者を回り、栄養計算、技術指導を行っているということで、現地の生産者の状況を詳しく知ることができました。また、現地では乳代と飼料コストが逆転しており、飼料メニューの見直しで非常に忙しいと話されていました。

低コストで生産するために、自給飼料の品質を高めるという話は非常に理にかなっており共感できた事です。その中でNDFdという指標とNDFdに伴うRFQは非常に興味深く、日本でも導入に向け取り組んだ方が良いと感じました。

生産者と色々話す中で、アドバイスしたことをどのように実行してもらうかということが難しいと話されていました。コミュニケーションの重要性は万国共通であると感じた次第です。

「牛は13歳の女の子と考える」というフレーズが印象的でした。



講義の様子



研修最終日のワールドディリーエキスポ視察時の写真



視察先農場の清潔な牛舎内



ウィスコンシン大学の牛舎